

浅川地区住民自治協議会だより

浅 せ せ ら ぎ

みんなで創る 元気な浅川！

第 84 号

発行日 令和 4 年 1 月 31 日

発行人 宮 下 文 夫

TEL・FAX 026-244-5165



「健康で安全で安心」して暮らせる浅川を

浅川地区住民自治協議会 会長 宮 下 文 夫



あけましておめでとうございます。

浅川地区の皆様には、日頃より住民自治協議会の事業運営に特段のご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

地区内の事業については、年度初めの住自協定期総会が 2 年続けて書面表決となり、その後の各種事業も感染防止対策の徹底を図るため、住民の皆様のご理解ご協力をいただきながら中止や規模縮小して開催してまいりました。特に活動の基本となる「第二次浅川地区まちづくり計画」と「第三次浅川地区福祉活動計画」が今年度からスタートし、各部会や委員会を始め各種ボランティアが、住み慣れた地域で「健康で安全で安心」して暮らせる浅川をめざして活動しています。

また、「社会を明るくする運動 浅川地区住民のつどい」、「浅川地区防災講演会」、「浅川地区戦没者追悼式」、「浅川地区住民福祉大会」なども開催出来ました。浅川ダム周辺の整備・利活用も浅川改良事務所との協働での「浅川ダム祭り」における農産物直売、「浅川フジバカマ苑」の整備、浅川河川敷のハックルベリーを使ったジャムの製造販売、花づくりなどが行われました。各地区の土木事業要望調査も 2 日間実施し、道路、河川、交通安全施設など今後の事業促進が見込まれています。

さらに浅川地区の諸課題について、市長や市の幹部の来訪時や都市内分権審議会、住民自治連絡協議会理事会などの場で要望して来ましたが、新市長の誕生でさらなる要望・要請活動が必要です。

現在も新型コロナウイルス感染が続いています。経済的損失は過去最大でその救済のための税金投入も最大です。コロナ禍によって社会が分断し、私達の家庭や生活でも普通の暮らしが喪失したと誰もが感じています。家での巣ごもり生活で体が弱ったり、マスクで人との会話が少なくなるとボケが始まり、特に高齢者は認知症になりやすくなります。

浅川地区内でも高齢化が進み空き家も多く見られます。このような時にこそ地域コミュニティの再生が望まれ、お互いに支え合うこと、心のよりどころを人とのつながりに見だし、地域に根差した生き方が必要です。

私も住自協の役員となって地域のいろいろなことを経験し勉強させていただきました。任期も残り少なくなりましたが、地域住民の皆様を始め役員、関係機関の皆様のご協力ご支援により会長という役職を果たさせていただいていることに厚く感謝申し上げます。

最後に新型コロナウイルス感染が早く終息することを願いつつ、今後さらなる浅川地区の発展と皆様方のご健康とご多幸を心より祈念申し上げまして年頭のご挨拶とさせていただきます。



【ブランド薬師からの日の出】

第8回浅川地区住民福祉大会開催される！

昨年は新型コロナ感染拡大のため中止になった「住民福祉大会」が、11月28日（日）浅川公民館大会議室において開催され、60名余のみなさんが出席しました。

大会では地域福祉活動功労者として家事援助や福祉輸送協力会員として長年ご尽力いただいていた服部伸子さん（浅川西条）と松村英三さん（浅川西条・当日は欠席）に感謝状が贈呈されました。

表彰式に続いて2019（令和元）年の台風19号災害において信州新町からボランティアとして長沼・豊野地区に入り、「炊き出し」舞台の中心として活動された星野百代さんの「ボランティアをもっと身近に」と題した講演が行われました。

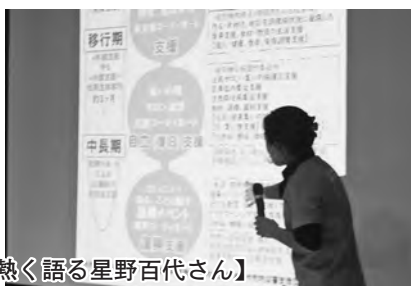
発災直後の手探り状態で始まった食べるだけでいっぱいだった“応急期”の拠点における「炊き出し」活動から、地区内におけるコミュニティ支援としての“移行期”の「炊き出し」、そして“中長期的”な復興サポートとしての多様な支援活動の実際を臨場感溢れる体験として熱く語られました。星野さんは現在被災した穂保地区に移り住んで焼き肉店を開業し、活動の場を広げています。

講演の中では当時被災地区に入って食事・物資の配送や災害ゴミの片付け等に携わった浅川社協を始めとするみなさんの声も聞くことができました。

星野さんは「ボランティアは特別な事ではなく、垣根のない横一線の助け合いと実感しています」と語って講演を終えました。



【被災地支援の体験を熱く語る星野百代さん】



【地域福祉功労表彰の服部さんと松村さん】



【浅川から被災地支援ボランティアに参加したみなさんも体験を語りました！】

住民福祉大会を終えて

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった「浅川地区住民福祉大会」を開催いたしました。記念講演「ボランティアをもっと身近に！」浅川地区住民自治協議会の事業は、すべてボランティアに支えられて実施されています。

また私達が生活していく上で必ずお世話になっているのが「ボランティア」です。

今回は災害ボランティアの活動を中心にご講演をいただきましたが、私たちは普段の暮らしの中で日々誰かに助けをもらい、力を借りて生活しています。そして気づかずに誰かの役に立ち、力を貸してあげているのではないのでしょうか。

「ボランティア」、特別なことをする訳ではなく、自然の中で生まれているものだと思います。「何か」が繋がって「これから」が生まれる。そんなことを考えさせられた「福祉大会」でした。

（浅川社会福祉協議会 会長 小山 隆）

人権啓発委員会現地研修行われる

2021（令和3）年度の人権啓発現地研修会を、11月11日（木）に実施しました。新型コロナウイルス感染下でバスの乗車人員を十分確保できないことから、今年度も人権啓発委員に限定した研修会として実施しました。委員と住自協金井副会長、浅川公民館宮下館長など12名が参加しました。

今回は、小諸市にある藤村記念館を視察し人権問題について研修することになりました。島崎藤村は、小諸義塾の教員をしているときに、はじめての小説として被差別部落問題を題材にした『破壊』を自費出版して代表作となりました。

当日は晴天に恵まれ、小諸までの1時間半の道のりを、車中で『破壊』のあらすじを読んで学習をしたり、2月開催予定の男女共同参画講演会の検討を行いました。

藤村記念館のある懐古園はちょうど紅葉祭りが開催されていて、紅葉が美しくコロナ感染が収まってきたこともあって、平日にもかかわらず大勢の観光客が来ていました。

藤村記念館前庭の紅葉の下で、柳沢厚館長から藤村の生涯、執筆活動、作品などの話をお聞きした後、館内に展示されている作品、遺品など貴重な資料を見学しました。

昼食後は、小山敬三美術館で代表作の「浅間山」「城」シリーズ、肖像画などの鑑賞、周辺施設見学、懐古園散策などを楽しみました。

『破壊』の主人公の生き方を通して明治期の厳しい差別受難との闘いや人間愛の在り方を学び、小山敬三画伯の美の世界を堪能した素晴らしい現地研修の一日となりました。

（人権啓発委員会 委員長 宮下之宏）



【藤村記念館の柳沢厚館長からお話を聴く参加者】



【人権啓発委員のみなさん】

健康講座「誰でもできる健康アップ術教室」開かれる！

11月24日（水）浅川地区健康委員会（外谷千代委員長）の健康講座が浅川公民館で開かれました。今回の講座は今年3回目。これまで“ふだん使っている体のことを考えよう”と様々な健康アップ術の紹介と健康相談を行ってきました。

今回は「食生活の見直し」をテーマに長野市包括ケア推進課の管理栄養士の青木由紀子さんを講師に、毎日の食生活が重要として『「低栄養」を予防し「身体の機能」を低下させない「フレイル予防」』で健康長寿を目指そうと強調されました。また講演後には北部保健センター蟻川絵里さんによる健康相談も行われました。



【講師の青木さんと蟻川さん】



【講座の様子】

第5回「なかよし交流会」開かれる！～浅川地区保護司会～

前日の雨が嘘のように晴れ上がった11月23日（火）、西条区の人権同和集会所・西条公民館で第5回「なかよし交流会」が開催されました。会場では焼き芋と飲み物も無料で振る舞われ約100人余の区民のみなさんで賑わいました。

集会所ではペットボトルを使ったランタン作り、新聞紙で作るスリッパ、避難時に役立つお菓子ポーチ作りの工作が行われ、大勢の子どもたちが楽しみました。

公民館では長沼地区復興対策企画委員会の柳見澤宏委員長の講演が行われました。「台風19号災害から得た教訓とこれからの備え～『まさか』に対する日頃の備え～」と題して前日（2019年10月12日）から堤防決壊した当日（13日）までの緊迫した状況と混乱しながら対応に奔走する対策本部、そして住民集会を機に復興に未来を賭ける住民のみなさんの姿を熱く語られました。



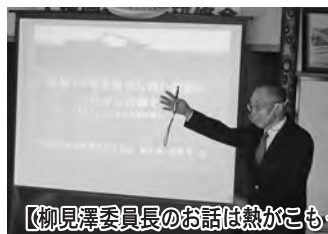
【入場では焼き芋・飲物提供】



【ランタン作り】



【スリッパ・ポーチ作り】



【柳見澤委員長のお話は熱がこもっていました！みなさんが聴き入りました】



浅川小学校PTAで“焼き芋大会”行われる！

11月13日（土）浅川小学校PTAでは焼き芋大会を行いました。

新型コロナの影響で、子どもたちの楽しみや思い出づくりが減ってしまい、少しでも何かできることをしてあげたいという思いがありました。当日は晴天に恵まれ、西グラウンドの紅葉がとても綺麗な日でした。

子ども達は友だちと協力しながら、お芋を洗って、新聞紙に包み、アルミホイルを巻いて、火の中にお芋を入れていきました。お芋を入れた焚火を興味深そうに眺めていました。

お芋が焼けるまでの時間は、学校の敷地内を使って「なぞなぞスタンプラリー」をしました。大人の頭ではなかなか解けない問題も、子どもたちの柔軟な頭ではすらすら解けていてびっくりしました。

その場で焼き芋を食べることはできませんでしたが、火を囲みながら、紅葉の綺麗な中、子ども達の笑顔と笑い声が響いた西グラウンドは、とても温かみのある空間でした。

地域の皆様にもご理解とご協力をいただき、大変感謝しております。本当にありがとうございました。これからもどうぞ、浅川小学校の子ども達を温かく見守っていただけたら嬉しいです。

（浅川小学校PTA 会長 太田直樹）



【濡らした新聞紙でお芋を包みアルミホイルを巻いて…美味しく焼けました！】



【焼き上がる間、スタンプラリーを行いました!!】



浅川にワインの風を！～

【地域おこしの現場から vol.1】

地域おこし協力隊を退任して早いもので3ヶ月が経ちました。隊員任務は終えましたが、変わらず浅川産ブドウでワインを造ることを目標に前進しています。

現在（12月）は研修先でもある角藤農園（高山村）でブドウ樹剪定を手伝いながら浅川圃場の施設設置作業を進めています。

垣根仕立て用の支柱設置、アンカー埋設、ワイヤー張り、剪定、誘引、小屋づくりなど、今年の冬も作業は盛りだくさん！春までに間に合わせます！

アンカーの埋設は、慣れない重機の作業で苦戦しましたがなんとか完了し、お陰で運転がとてもうまくなりました（^o^）



【アンカー埋設作業～バックホー運転は初めてでしたがうまくなりました！】

圃場を囲む山の松くい虫にやられた枯松を昨年長野市に伐採してもらってききましたが、残った3本の内の1本が畑に倒れこみ電気柵やブドウ棚に被害がでました（写真）。残る2本も危ない状況で来年早めに対応していただく予定です。



【まさかの倒木！！電気柵とブドウ棚が壊されました！】

長野の厳しい冬がこれから始まります。寒さに負けず目標目指して頑張っていきたいと思いますので、引き続きご支援の程よろしくお願いたします！！

（元地域おこし協力隊 宋 裕光）

桜がワインブドウ畑に搬入されています！

～長沼地区の桜堤の桜を仮植え～

一昨年の台風19号災害で決壊した長沼の桜堤堤防強化工事のために、地域おこし協力隊員の宋裕光さんがワイン用ブドウを栽培している畑（空き地部分）に、桜を一時仮植したいと長野市からの要請があり10月下旬より桜の搬入が始まりました。

12月までに約400本の桜が運び込まれ散水・維持管理をした上で、今年2月には長沼の河川堤防に移植される予定です。





浅川の一年を振り返って

浅川支所長 柄澤 貞久

浅川の2021年を5つのトピックスにまとめてみました。地域のこの一年を振り返ってみましょう。

① 新型コロナ感染拡大で引き続き住民生活に影響

7月下旬から9月上旬には第5波がきて、市内の新規感染者数も8月は累計418人に上り、社会・経済活動は様々な形で自粛を迫られました。地域の各種行事も中止や規模を縮小しての開催を余儀なくされ、前年に引き続き、住民自治協議会総会、地区市民運動会、ゆうわ祭が中止となりました。地域内のつながりの希薄化が懸念される一方、「浅川社協がおじゃまします」など、コロナ禍での新たな取り組みも成果を上げています。



② この夏も豪雨による被害が発生

6月26日に地区北東部が豪雨に見舞われ、浅川東条では民家裏の斜面で地滑りが発生、伺去では市道浅川東条台ヶ窪線の改良工事現場で、未舗装部分の碎石が流出するなどの被害となりました。また、7月10日の豪雨では、三ツ出の民家敷地内で土砂崩落が発生しました。いずれも人的被害がなかったのは幸いでしたが、気候変動により頻発化している豪雨には、今後も十分な警戒が必要です。



③ ハックルベリーが大豊作、美味しいジャムができました

浅川の河川敷遊歩道や真光寺地区内で、チーム・フロンティア浅川のメンバーや有志の皆さんが育てたハックルベリーが今年は豊作でした。収穫した実は総計500kg近くで、昨年の約5倍。2,000本余のジャムになったため、住民自治協議会事務局のほか、A・コープでも販売されました。アントシアニンがブルーベリーの4倍以上とも言われるハックルベリー、将来は、浅川を代表する特産品に成長すればいいですね。



④ 花✿花✿隊が「ながの花と緑大賞2021」大賞を受賞

市民の優れた緑化活動を表彰する「ながの花と緑大賞2021」の公共緑化の部で、大賞に選ばれた地区内の園芸ボランティア「花✿花✿隊」は、支所や公民館を訪れる方たちがニコニコ笑顔になるようにと、精力的に活動してきました。新型コロナの影響で外出もままならない昨今、花や緑が与えてくれる癒しや安らぎを一層実感します。こうした時の栄えある大賞ですから、誠に喜ばしいです。



⑤ 地域おこし協力隊が退任

2018年10月以来、地域おこし協力隊として活動してきた宋裕光さんが、9月末日をもって任期満了、退任されました。浅川ダム建設時の残土置き場にワイン用ブドウの圃場を整備し、その栽培に取り組んでこられました。約6,500本の苗木は現在順調に生育しており、2022年秋には本収穫が見込まれています。今後も当地区に定住し、浅川産地ワインの醸造という目標、さらには浅川ワイナリーの設立という夢に向かって奮闘されます。浅川の新なる魅力発信に期待したいですね。



11月に作家で僧侶の瀬戸内寂聴さんが亡くなりました。生前、寂聴さんは、「いまを切に生きる」ことを、事あるごとに説いておられました。私たちもこの一年、各々良いこと悪いことあったでしょうが、一年という単位をひとつの気持ちの区切りにして、また前向きに、一日一日を大切に生活していきましょう。

共に生きる



浅川おとこ塾、開塾しました!

【陶芸】



思い思いに作品づくり。色鮮やかな松代焼に仕上がりました。

【簡単燻製】



身近な食材が、家にある道具で香り豊かな燻製に様変わり。

【珈琲・淹れ方】



珈琲の基礎知識を学び、ハンドドリップに挑戦!

【珈琲・自家焙煎】



体力勝負の手焙煎。手塩にかけた珈琲の味は格別です。

新型コロナウイルスの影響により、例年より遅いスタートとなりましたが、今年度も無事に開塾することができました。

陶芸、燻製、珈琲と続き、残すところは2月の講座のみとなります。こんな講座をやってみたい!のお声もぜひお寄せください♪

コロナの感染状況が落ちつくことを祈りつつ、来年度も皆様のご参加をお待ちしております!

浅川支所敷地内にある資源回収コンテナをご存知ですか? この資源回収の全収益は、地域たすけあい事業の一環として運行している2台の福祉自動車「ふくちゃん号」の運行・維持費用に活用されています。

ご協力をよろしくお願いいたします!

資源物の積み込みボランティアさんも随時募集中♪

毎月第4木曜日 午前8時～ 浅川支所にて
お問い合わせは浅川社会福祉協議会まで Tel263-3365

資源回収



長野市11地区公民館合同成人式行われる



【会場風景～長野市芸術館会場内と会場前広場～】



【オープニングは三登山太鼓（若槻）】

1月9日（日）長野市芸術館において11地区公民館実行委員会（第一～第五・芹田・古牧・三輪・浅川・若槻・小田切）の主催で合同成人式が開かれ、新成人対象者1,229名の内686名（男355名、女331名）が参加、浅川地区からは対象者51名のうち40名（男16名、女24名）が出席しました。昨年はコロナ禍で中止を余儀なくされましたが、実行委員会のみなさんの尽力で今年は受付を2グループに分け時間差をつけるなどコロナ感染対策をした上で開催にこぎつけました。



青木南歩さん 小林潤哉さん 橋井麻林さん 佐藤匠馬さん
【新成人誓いのことば】

三登山太鼓（若槻地区）の勇壮な演奏で始まった式典では、新成人を代表して古牧地区の青木南歩さん、芹田地区の小林潤哉さん、第二地区の橋井麻林さん、第一地区の佐藤匠馬さんの4人が決意と希望に満ちた「誓いのことば」を述べました。また来賓を代表して荻原市長が祝辞を述べ新成人の門出を祝福しました。
（教育文化部会・地区公民館連合会）

その他の主な事業・活動

- ☆浅川地区新年祝賀会（区長会・地公連）……………1月3日（日）⇒中止
- ☆浅川地区冬季スポーツ大会（地公連）……………2月13日（日）⇒中止
- ☆浅川地区男女共同参画講演会（人権啓発委員会）……2月20日（日）午後1時30分～（公民館大会議室）

「赤い羽根共同募金」にご協力ありがとうございました！

募金総額 **1,454,357 円**

（内訳） 個人：1,271,857円、法人：182,500円

※浅川地区目標額840,000円を超過する額は住民自治協議会に還元され、様々な活動費に充てられる予定です。

広報委員から

コロナ禍も早いもので2年が過ぎ、今年こそはと思いましたが、まだまだ振り回されそうな気配です。地公連では昨年一年をかけ、これまで実施してきた活動・事業体制全般にわたり見直し、検討を重ねてまいりました。その中で少子高齢化が進む各地区内の厳しい現状を知るに当たり、浅川地区全体の現在を改めて認識する年になりました。

広報委員会のみなさんのご協力でここまで来ました。本年度もあとわずか。今年は寅年、活力ある活動ができたらと思っています。 広報委員 教育文化部会・浅川地区公民館連合会副会長 小林 高 司